租税教育で投票行動の意義を問い直す

酒田市立第二中学校教諭　　３学年　江連　由大

実施年月日：令和５年１月　９５名

１　実践計画・指導のねらい

中学校の社会科「公民」では、政治分野の後に経済分野を学習するカリキュラムとなっており、今回は「租税教育」を通じた政治分野との往還を目指した。

本校では政治分野において、単元末に模擬選挙を行う実践を数年かけて積み重ねており、今年度も生徒も熱心に政策を打ち出して選挙活動から投票まで取り組む姿が印象的だった。授業評価アンケート等を見ても、生徒から好評の実践である一方、生徒の本音に耳を傾けると「投票に行く」というインセンティブに繋がっているとは言い難いのが現状である。そこで、「租税教育」に重きを置いて財政に関する学習を進めることが、その課題克服の一手となるのではないかと考えた。単元末で「国家予算」をつくるという新たな視点からの活動を通じて政治への関心を高め、今一度、投票行動の意義を問い直したい。

また、「誰一人取り残さない」学習を実現するためにも、視覚教材やゲームなど、生徒の意欲を喚起できそうな教材を単元内に配置したところである。

２　単元構成・実際の指導状況（単元を通した全体の主な学習計画及び教師の指導）

時間	学習内容	主な発問（○）、こどもたちの反応（●）、使用教材等（□）
1	「平等」と「格差」、「運」と「努力」をキーワードにし、これからの社会がどう在るべきかについて、イメージを膨らませる。	○私たちは「大きな政府」と「小さな政府」のどちらを目指すべきなのか？ ●人々が頑張れる環境をつくるために政府が格差を埋めたほうがいい。 ●格差を埋めることより、個人が努力することのほうが大切なのではないか。 □大学入試センター「共通テスト２０２３『倫理』大問４」 □資料集「ビジュアル公民２０２２」（とうほう）
2	納税の意義を理解し、「水平的公平」「垂直的公平」といった「公平」に関する見方・考え方を獲得する。 	○なぜ税が私たちにとって「公平」なものであるべきなのか？ ●税金がない世界では、子どもや高齢者が苦しい立場に置かれてしまう。 ●消費税を増税すると、所得の低い人の生活に影響がでるということに驚いた。 ●累進課税があることで収入に応じて支え合っていることに関心を持った。 □国税庁動画チャンネル（ＹｏｕＴｕｂｅ）「ようこそアナザーワールドへ」 □国税庁「私たちの暮らしと税」
３・４	社会保障制度のしくみを理解し、現代的課題を題材に現状と課題を探究する。 	○社会保障制度は、私たちの未来を保障するものだといえるだろうか？ ●社会的に弱い立場の人を手助けするためにも社会保障制度は必要だと思った。 ●すべての人が夢を実現するためにも制度をさらに充実させるべきだ。 ●奨学金制度や就学援助制度など、自分が進路を決めるときにも役に立ちそう。 □セーブ・ザ・チルドレン「あなたのミカタ！権利がワカルと世界がカワル」 □国税庁「私たちの暮らしと税」
５・６	スプレッドシートで国家予算を作成する活動を通じて、これからの社会の在り方を構想して表現する。 	○私たちはこれからどのような社会を目指していくべきなのだろうか？ ●国の予算はその国が何を大切にしているのかが一目で分かるものではないか。 ●歳出の割合を少し変えるだけで人々の生活が大きく変わるのだと思うと悩んだ。 ●他の班が発表するのを聞いて、医療や子育て支援を充実させるべきだと思った。 ●国家予算を作るときに国債の金額も気にしなくてはならないのが難しかった。 ●実際の国家予算はどのように決められているのか見てみたくなった。 □財務省「財務教育プログラム　中学生向け～財務大臣になって予算を作ろう！～」 □国税庁「私たちの暮らしと税」

【単元のまとめ】（振り返りカードの記述から）

●最初は税を払わなければいけないから払うだけだった。社会の学習を通して、その後の使い道に関心を持つことが大切だと思った。みんなのための費用はみんなで負担している。それこそ選挙などにも意欲的にならないといけないと感じた。

【指導のポイント】≪１時間目≫

単元の学習に主体的に取り組むための環境づくりと位置づけ、架空の高校生ＧとＨの会話文を題材とした。自分の考えを記述したり、他の人と意見交流したりする活動を通して、課題を自分事として捉えることができた。

【指導のポイント】≪２時間目≫

動画を視聴し、納税が私たちの日常生活を支えていることについて理解を深められた。

身近な税である消費税と所得税のしくみを比較し、それぞれのメリット・デメリットをまとめることができた。そのなかで多様な立場を想像して、税の「公平」であることの重要性に言及する姿が見られた。

【指導のポイント】≪３・４時間目≫

社会保障制度のしくみを学習し、その重要性を探求するために現代的課題である「子どもの貧困」を題材とした。「子どもの貧困」を扱うにあたっては、直截的な表現は避けるなど、目前の生徒への配慮を念頭に置いた。そこで、シミュレーションゲームを活用し、自らの高校生活を想像しながら「奨学金制度」「就学援助制度」などの制度について意欲的に学ぶことができた。

【指導のポイント】≪５・６時間目≫

国家予算の作成で、初めはゲーム感覚で歳出・歳入の増減を調整している様子が散見された。そのため、机間指導のなかで対話を重ねて歳出・歳入の増減が誰の生活に大きな影響かについて共に考えた。そのため、「年金は減らすが、代わりに生活保護を充実させて高齢者の生活を保障する」といった主張に見られるように、全体のバランスに配慮して予算を作成することができた班が多かった。

税に対する負のイメージが、学習のなかでの発見により好転したという記述が多かった。「私」を主語に現在や未来の社会について考える記述も見られた。

３　実践の成果（◎）と課題（◆）（租税教育を実施後、教諭自身の感想や児童・生徒の反応、他の教諭に対して、今後参考としてほしい事項など）

◎「『税金をこう使って欲しい』などの要望があったら、選挙で投票することも大事だと思った」という生徒の記述があり、学びのなかで感じた疑問や矛盾を表現する方法として投票行動を捉え直したものだった。主権者として、納税者として、政治に関わろうとする意識の「芽」が生徒のなかにあることを見取ることができた。

◎生徒にとって学習のなかで「分からない」ことが多くでてくると学習意欲が後退してしまうことが多いが、積極的に歳出の使途を調べたり、班のメンバーや担当教員との対話を通じて自らの考えを修正したりするなど、粘り強く学習に取り組む姿が印象的だった。とりわけＩＣＴの効果的な活用は、学習意欲の喚起に繋がったのではないかと考える。

◆教材を取捨選択しきれなかったため、基本的なことを学ぶ場面などが駆け足になってしまうことが多かった。そのため、ゆとりをもって理解の確認をできなかった。

◆国家予算を立てる活動では、作成から発表まで班のなかで協力しつつ完成度の高いものを仕上げてきた。それがゆえにもっと効果的に活用できたのではないかと疑問が残る。似た予算のテーマごとに分類・比較したり、逆に相反する予算を取り上げて討論の材料にしたりなど、時数との兼ね合いもあるが、もう一歩踏み込んで探究できればよかった。